



中原区区民アンケート 概要版

令和2年12月

川崎市中原区

○ 調査の目的

この調査は、区政に対する区民の意識、要望を、地域特性を踏まえて多面的に調査を行うことで明らかにし、調査結果を区政運営や地域課題の解決に係る基礎資料として活用することを目的として実施した。

○ 調査の方法

- (1) 調査地域 …… 川崎市中原区全域
- (2) 調査対象 …… 区内に在住する満18歳以上の男女（外国籍の区民を含む）
- (3) 標本数 …… 2,000サンプル
- (4) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- (5) 調査方法 …… 郵送法
- (6) 調査期間 …… 令和2年7月31日(金)～令和2年8月26日(水)
- (7) 調査委託機関 …… 株式会社CCNグループ

○ 調査の項目

- | | |
|---------------------|------------------|
| (1) 区民の定住性 | (8) 自立的な活動 |
| (2) 生活環境評価 | (9) 地域の支え合い |
| (3) 区役所業務の評価・区のイメージ | (10) 在宅療養 |
| (4) 中原区役所の広報 | (11) 防災対策 |
| (5) 中原区役所の環境 | (12) ペットに関する防災対策 |
| (6) 子育て支援 | (13) 新しい生活様式について |
| (7) 地域包括ケアシステム | (14) 自由意見 |

○ 回収状況

- | | |
|------------|---------------------|
| (1) 調査票配布数 | 2,000 |
| (2) 有効回収数 | 1,178 (有効回収率 58.9%) |

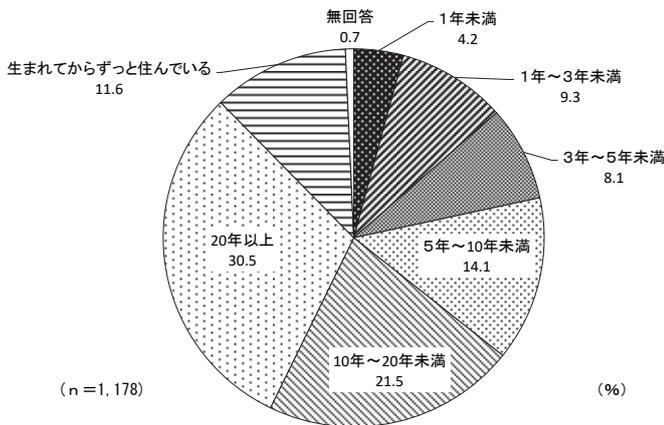
○ この報告書の見方

図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。回答の比率(%)は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つだけ回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から複数の回答を選ぶ質問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常100.0%を超える。

1. 区民の定住性

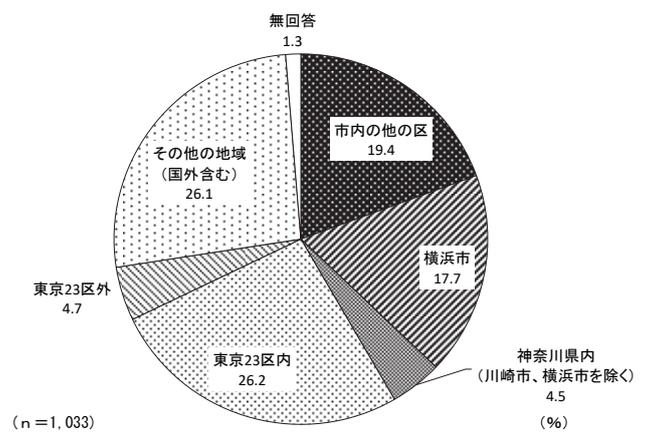
(1) 居住年数

「20年以上」(30.5%)と「生まれてからずっと住んでいる」(11.6%)の2つを合わせた『長期居住者』(42.1%)は4割を超えて高くなっている。「5年～10年未満」(14.1%)と「10年～20年未満」(21.5%)の2つを合わせた『中期居住者』(35.6%)は3割半ばで、「1年未満」(4.2%)、「1年～3年未満」(9.3%)、「3年～5年未満」(8.1%)の3つを合わせた『短期居住者』(21.6%)は2割を超えている。



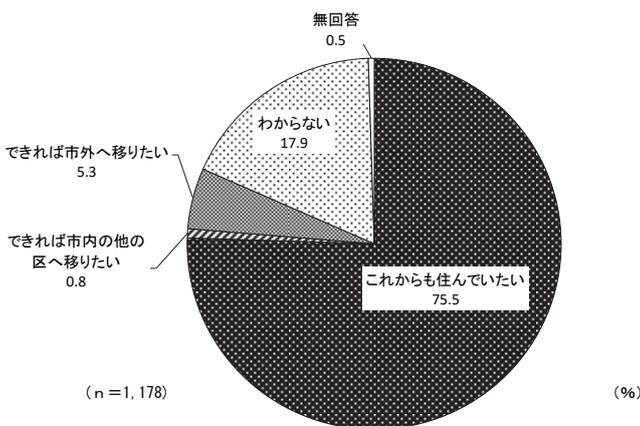
(2) 以前の居住場所

中原区に「生まれてからずっと住んでいる」以外と回答した方(1,033人)に、以前の居住場所を聞いたところ、「東京23区内」(26.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「その他の地域(国外含む)」(26.1%)、「市内の他の区」(19.4%)、「横浜市」(17.7%)となっている。



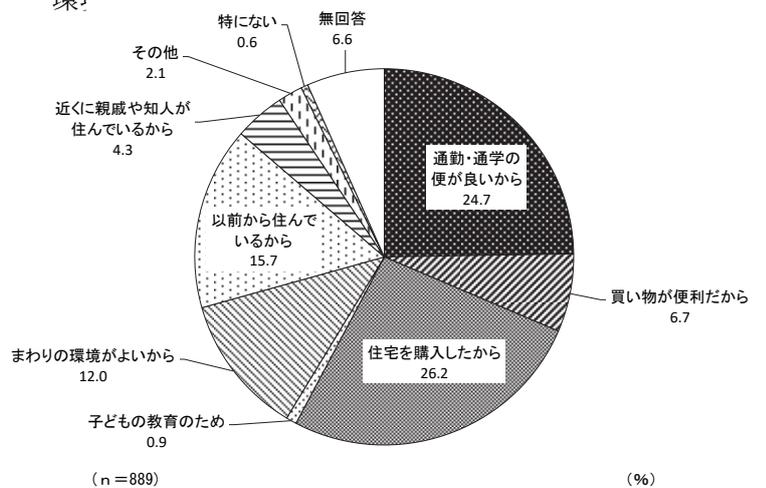
(3) 定住意向

「これからも住んでいたい」(75.5%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(0.8%)を合わせた『市内に住みたい』(76.3%)が7割半ばで高くなっている。一方、「できれば市外へ移りたい」(5.3%)は1割未満となっている。



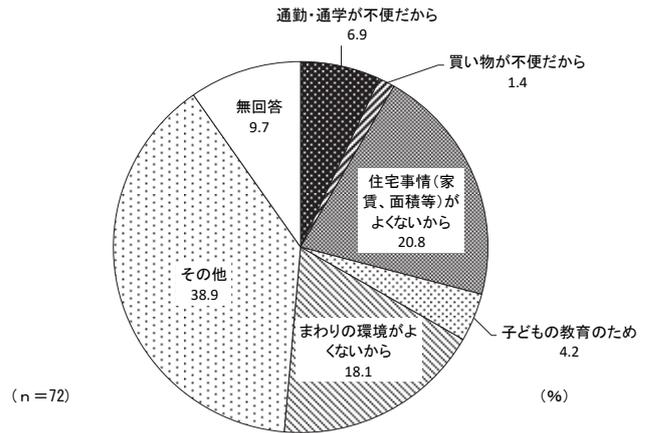
(4) 定住したい理由

中原区に「これからも住んでいたい」と回答した方(889人)に、その理由を聞いたところ、「住宅を購入したから」(26.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「通勤・通学の便が良いから」(24.7%)、「以前から住んでいるから」(15.7%)、「まわりの環境がよいから」(12.0%)、「買い物に便利だから」(6.7%)となっている。



(5) 転出したい理由

中原区から「できれば市内の他の区へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方(72人)に、その理由を聞いたところ、「住宅事情(家賃、面積等)がよくないから」(20.8%)が約2割で最も高く、次いで「まわりの環境がよくないから」(18.1%)、「通勤・通学が不便だから」(6.9%)となっている。

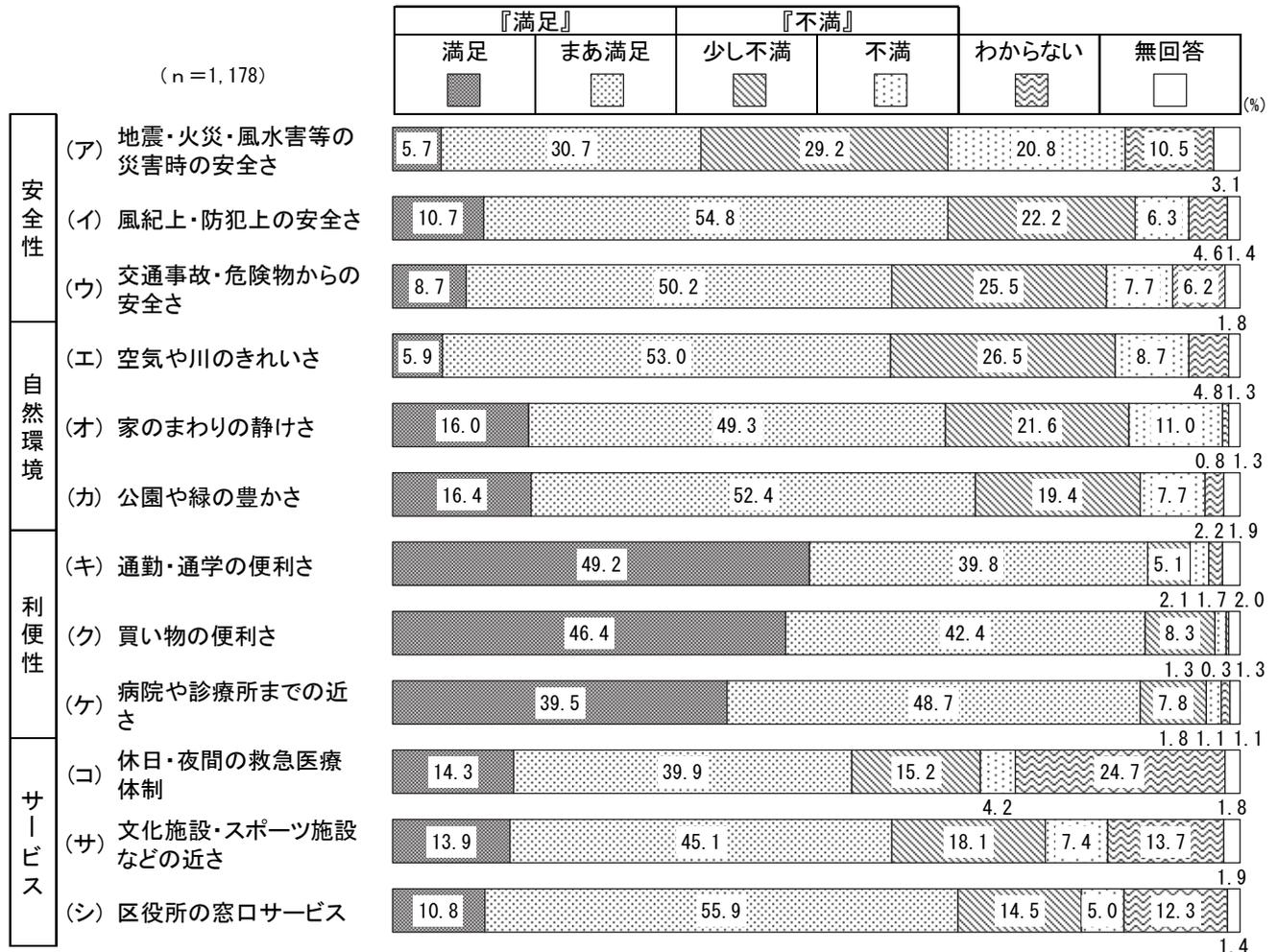


2. 生活環境評価

(1) 生活環境の満足度

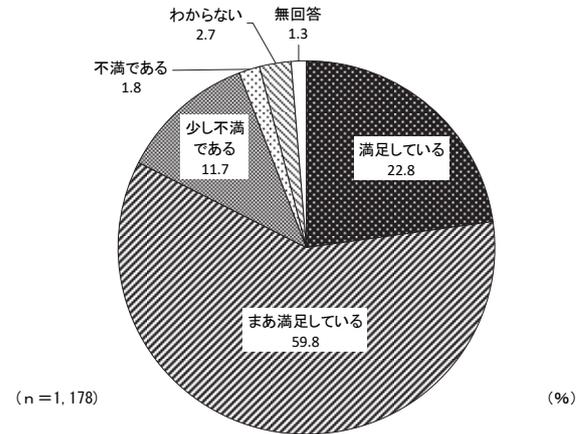
中原区の生活環境について、12項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(キ) 通勤・通学の便利さ(89.0%)が9割弱で最も高く、次いで(ク) 買い物の便利さ(88.8%)、(ケ) 病院や診療所までの近さ(88.2%)となっている。

一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全性(50.0%)が5割で最も高く、次いで(エ) 空気や川のきれいさ(35.2%)、(オ) 家のまわりの静けさ(32.6%)となっている。



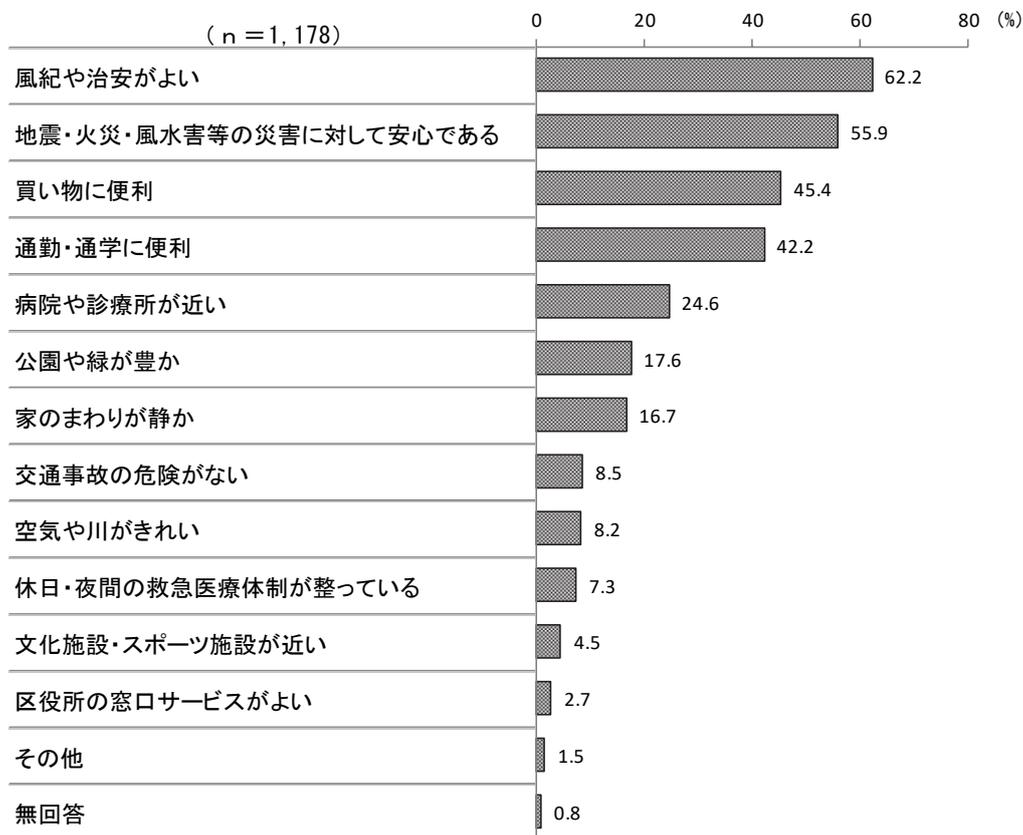
(2) 生活環境全体の満足度

地域の生活環境を総合的にみた場合、中原区にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(22.8%)と「まあ満足している」(59.8%)の2つを合わせた『満足』(82.6%)が8割を超えて高くなっている。一方、「少し不満である」(11.7%)と「不満である」(1.8%)の2つを合わせた『不満』(13.5%)が1割を超えている。



(3) 住みよい環境についての意識

住みよい環境とは、どのようなものだと思うか聞いたところ、「風紀や治安がよい」(62.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「地震・火災・風水害等の災害に対して安心である」(55.9%)、「買い物に便利」(45.4%)、「通勤・通学に便利」(42.2%)となっている。



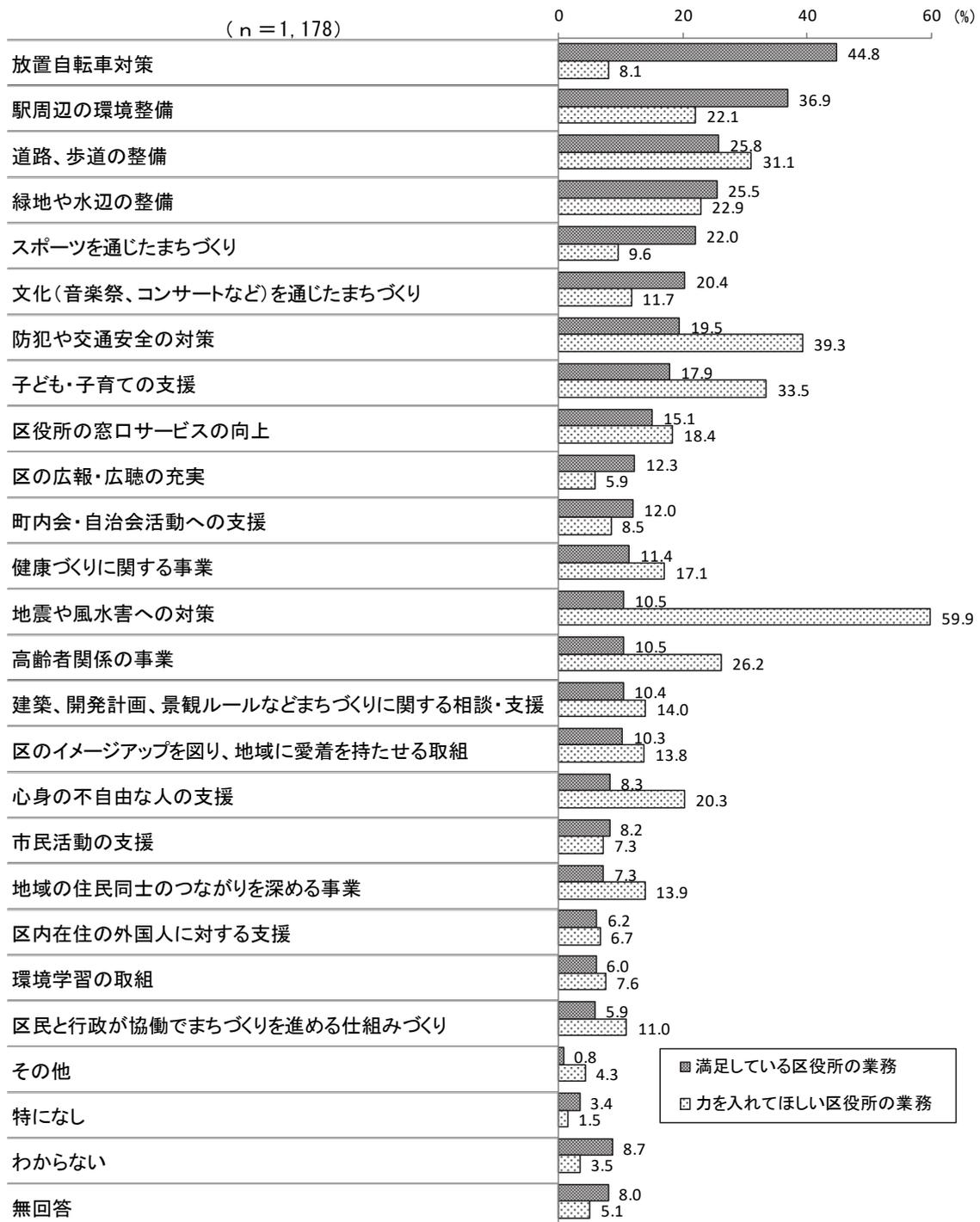
3. 区役所業務の評価・区のイメージ

(1) 満足している区役所の業務

(2) 力を入れてほしい区役所の業務

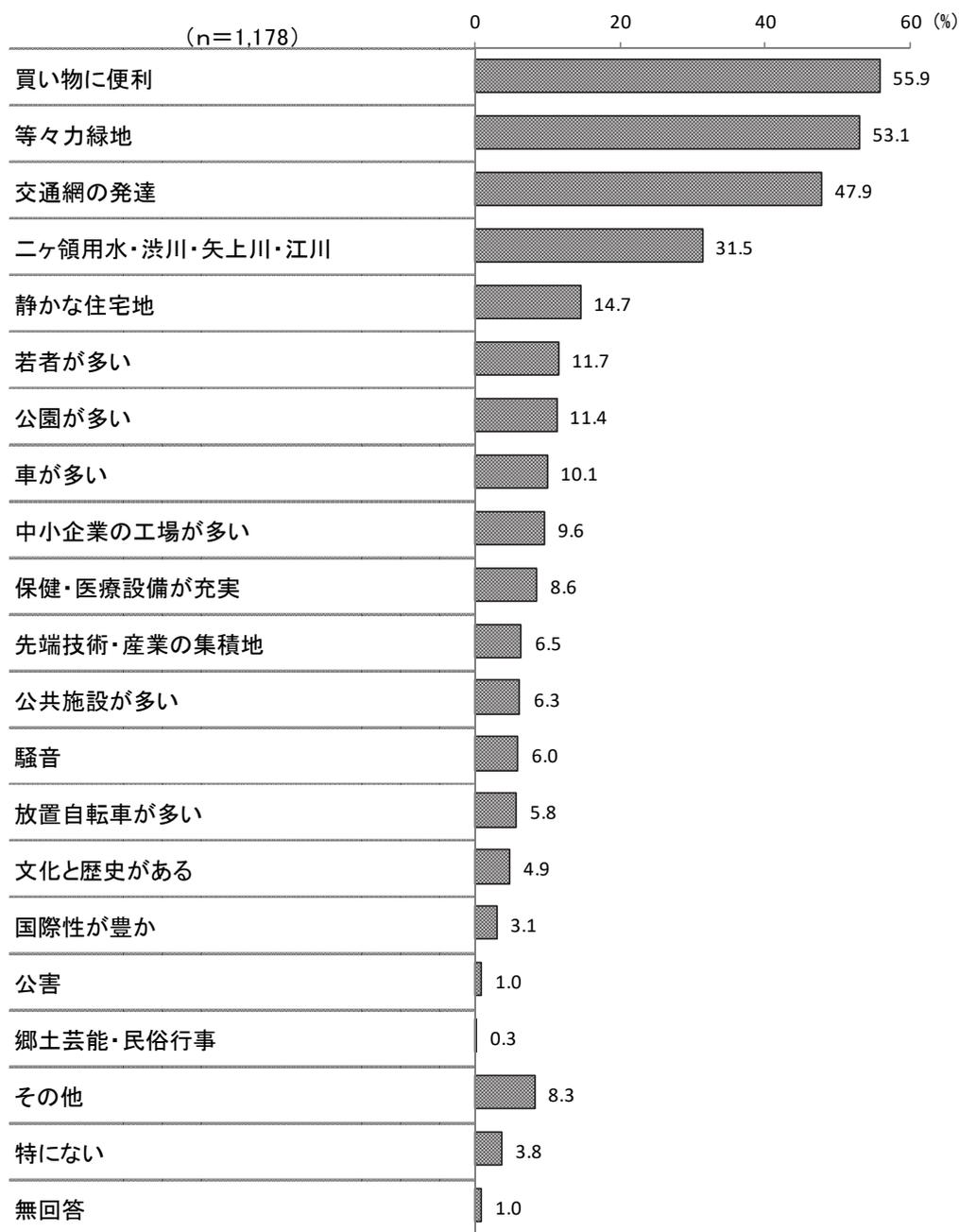
区役所の業務で、よくやっていると思うものを聞いたところ、「放置自転車対策」(44.8%)が4割半ばで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(36.9%)、「道路、歩道の整備」(25.8%)、「緑地や水辺の整備」(25.5%)となっている。

区役所の業務で、今後、特に力を入れてほしいと思うものを聞いたところ、「地震や風水害への対策」(59.9%)が約6割で最も高く、次いで「防犯や交通安全の対策」(39.3%)、「子ども・子育ての支援」(33.5%)、「道路、歩道の整備」(31.1%)となっている。



(3) 中原区のイメージ

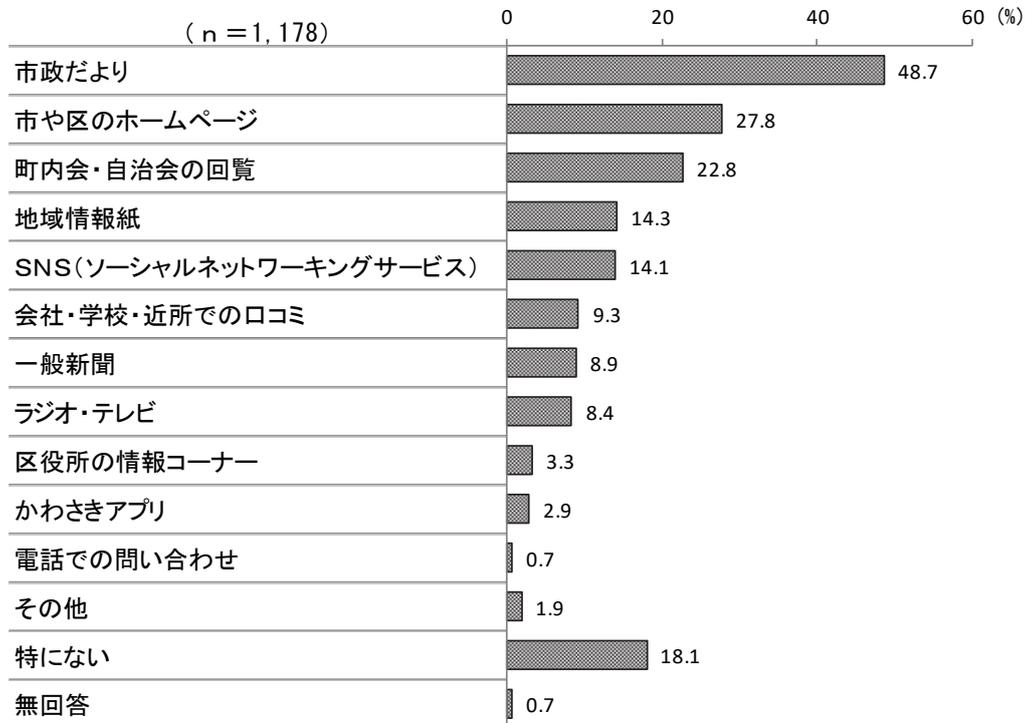
中原区の「イメージ」として何を思い浮かべるか聞いたところ、「買い物に便利」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「等々力緑地」(53.1%)、「交通網の発達」(47.9%)となっている。



4. 中原区役所の広報

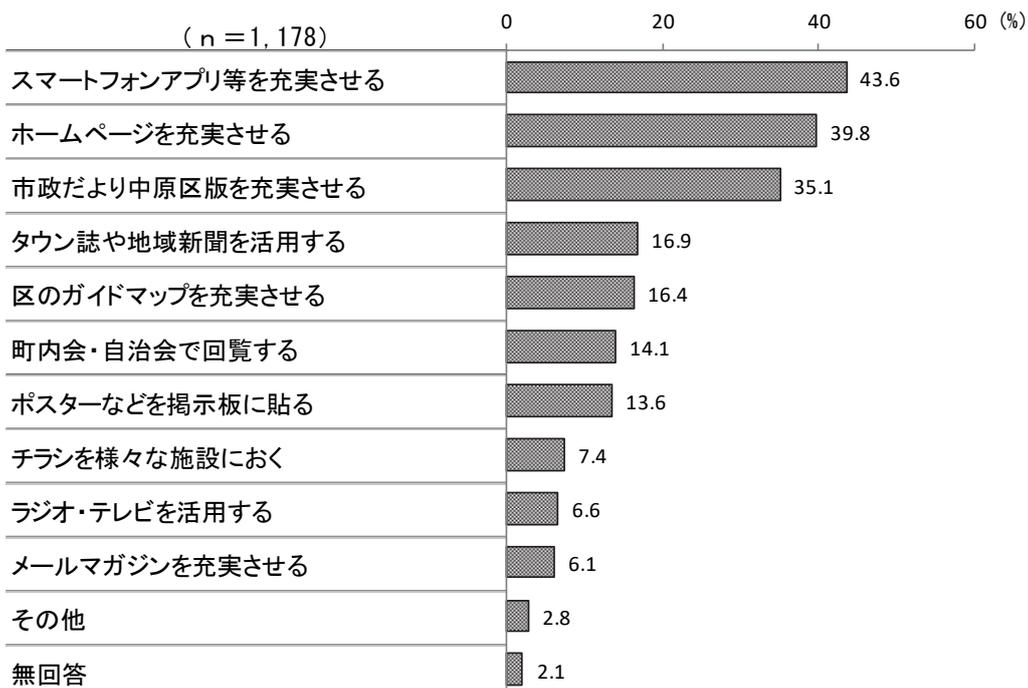
(1) 行政・地域情報の入手方法

「市政だより」(48.7%) が5割近くと最も高く、次いで「市や区のホームページ」(27.8%)、「町内会・自治会の回覧」(22.8%) となっている。



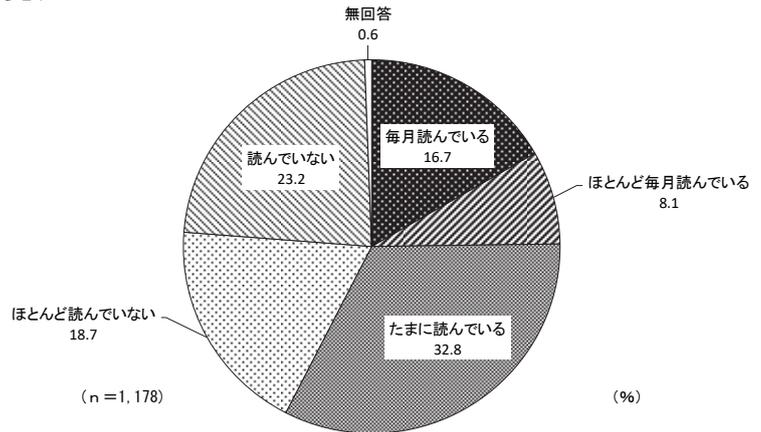
(2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法

「スマートフォンアプリ等を充実させる」(43.6%) が4割を超えて最も高く、次いで「ホームページを充実させる」(39.8%)、「市政だより中原区版を充実させる」(35.1%) となっている。



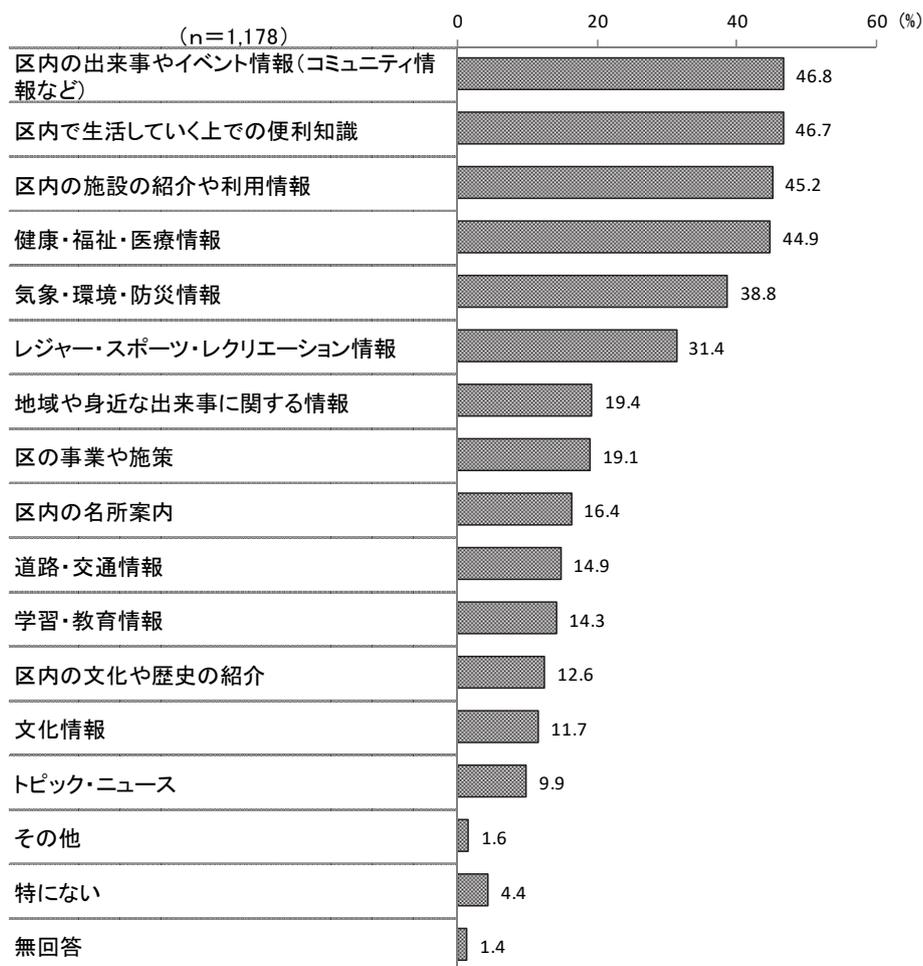
(3) 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況

「毎月読んでいる」(16.7%)が1割半ば、「ほとんど毎月読んでいる」(8.1%)は1割近く、「たまに読んでいる」(32.8%)は3割を超えている。一方、「ほとんど読んでいない」(18.7%)が2割近く、「読んでいない」(23.2%)は2割を超えている。



(4) 充実してほしい行政・地域情報の種類

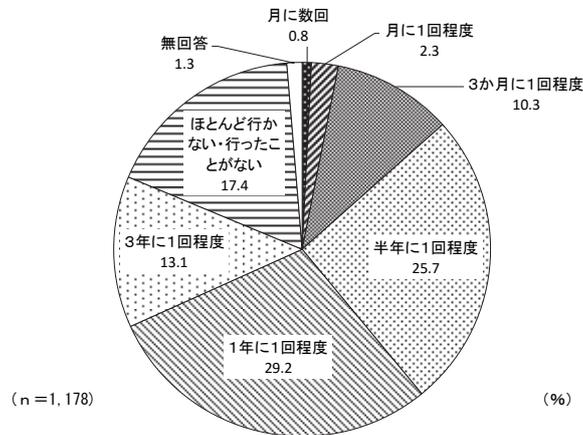
「区内の出来事やイベント情報(コミュニティ情報など)」(46.8%)、「区内で生活していく上での便利知識」(46.7%)、「区内の施設の紹介や利用情報」(45.2%)、「健康・福祉・医療情報」(44.9%)、「気象・環境・防災情報」(38.8%)と続いている。



5. 中原区役所の環境

(1) 中原区役所の利用頻度

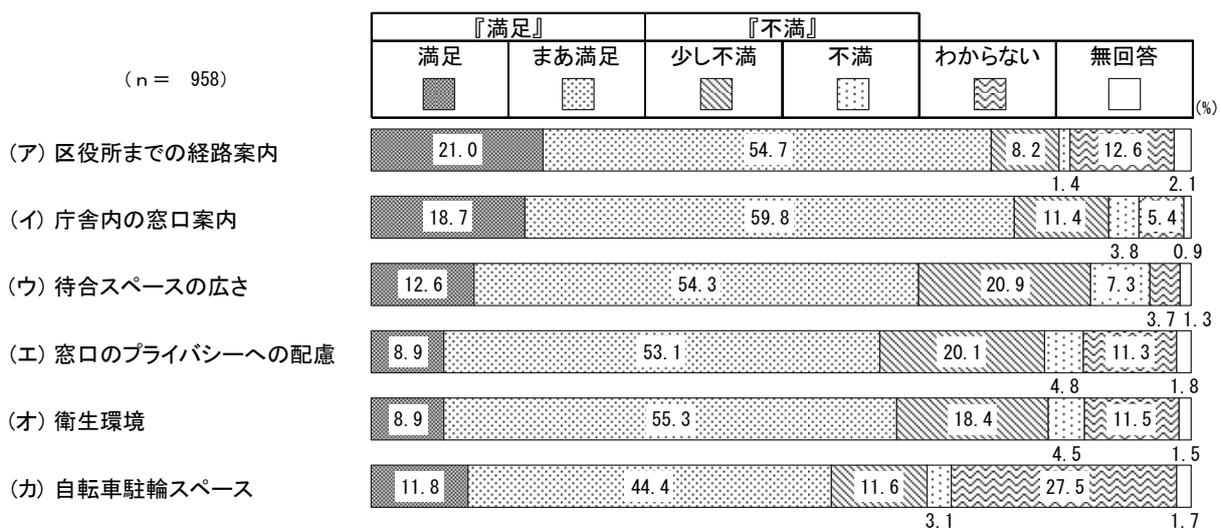
「1年に1回程度」(29.2%)が3割弱で最も高く、次いで「半年に1回程度」(25.7%)、「3年に1回程度」(13.1%)、「3か月に1回程度」(10.3%)となっている。一方、「ほとんど行かない・行ったことがない」(17.4%)は2割近くとなっている。



(2) 中原区役所の環境・設備の満足度

中原区役所の利用頻度で「ほとんど行かない・行ったことがない」以外と回答した方(958人)に、中原区役所の環境・設備について6項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(イ)庁舎内の窓口案内(78.5%)が8割近くと最も高く、次いで(ア)区役所までの経路案内(75.7%)、(ウ)待合スペースの広さ(66.9%)となっている。

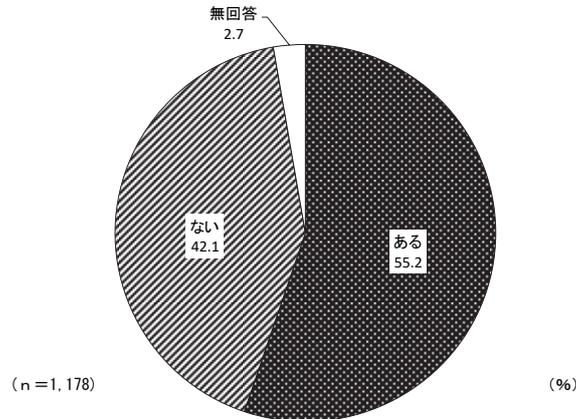
一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(ウ)待合スペースの広さ(28.2%)が3割近くで最も高く、次いで(エ)窓口のプライバシーへの配慮(24.9%)、(オ)衛生環境(22.9%)となっている。



6. 子育て支援

(1) 子育ての経験の有無

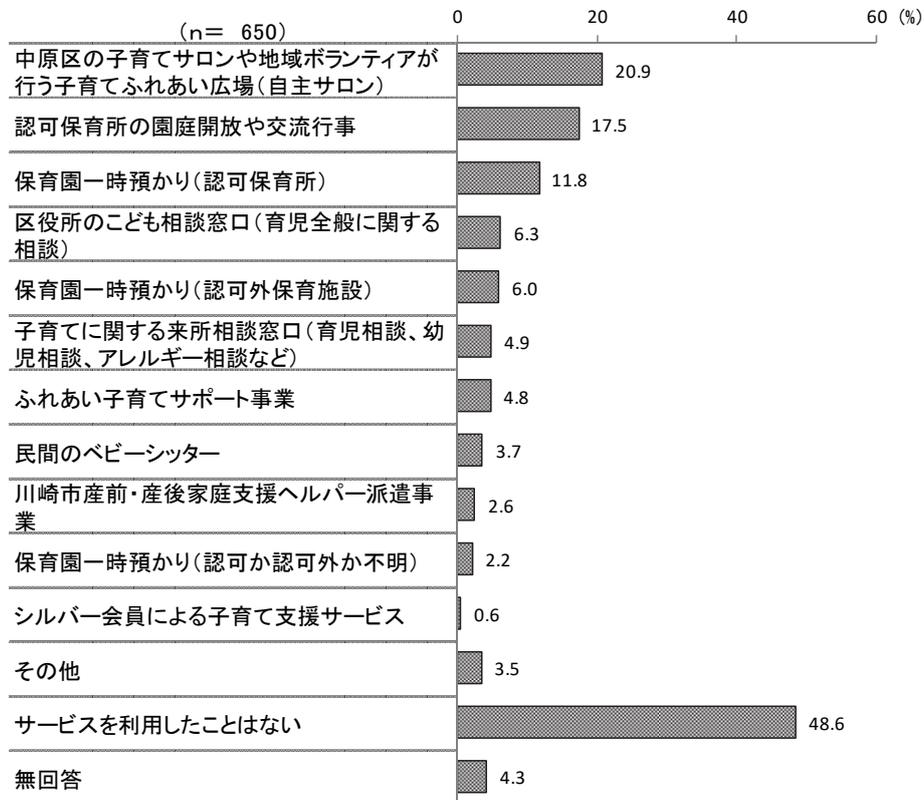
「ある」(55.2%)が5割半ば、「ない」(42.1%)は4割を超えている。



(2) 利用したことがある子育て支援サービス

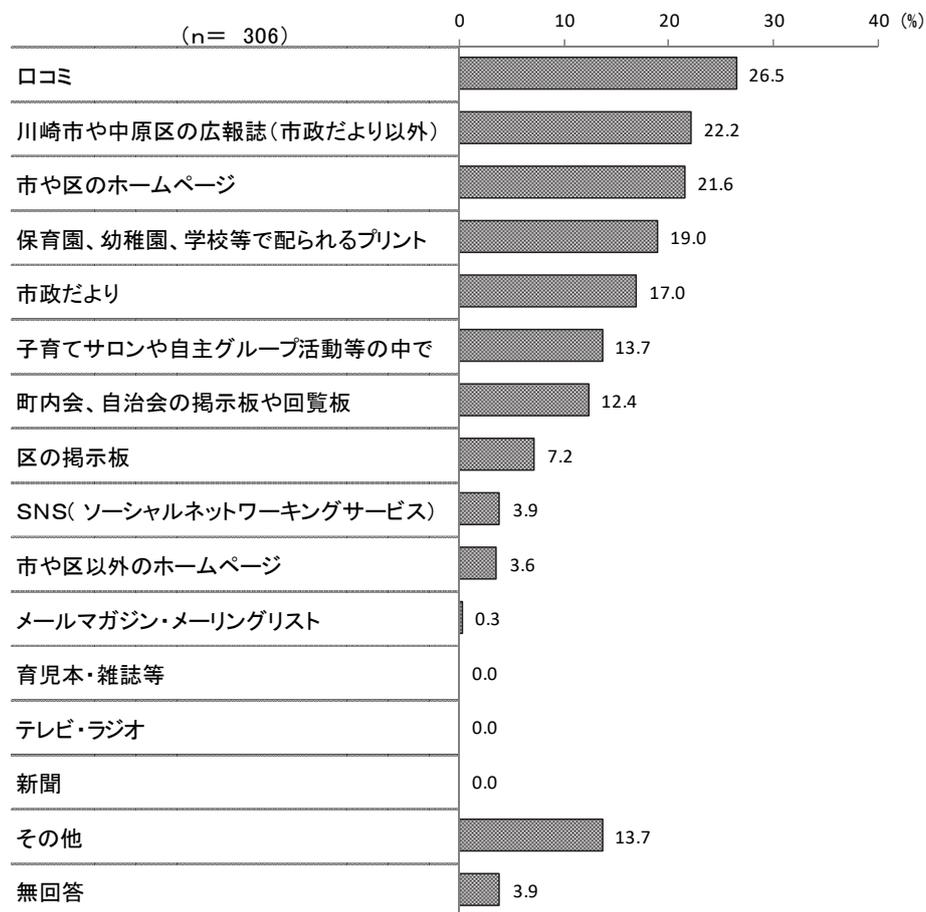
子育ての経験が「ある」と回答した方(650人)に、ふだん利用している、もしくは利用したことのあるサービスを聞いたところ、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場(自主サロン)」(20.9%)が約2割で最も高く、次いで「認可保育所の園庭開放や交流行事」(17.5%)、「保育園一時預かり(認可保育所)」(11.8%)となっている。

一方、「サービスを利用したことはない」(48.6%)は5割近くとなっている。



(3) 子育て支援サービスを知ったきっかけ

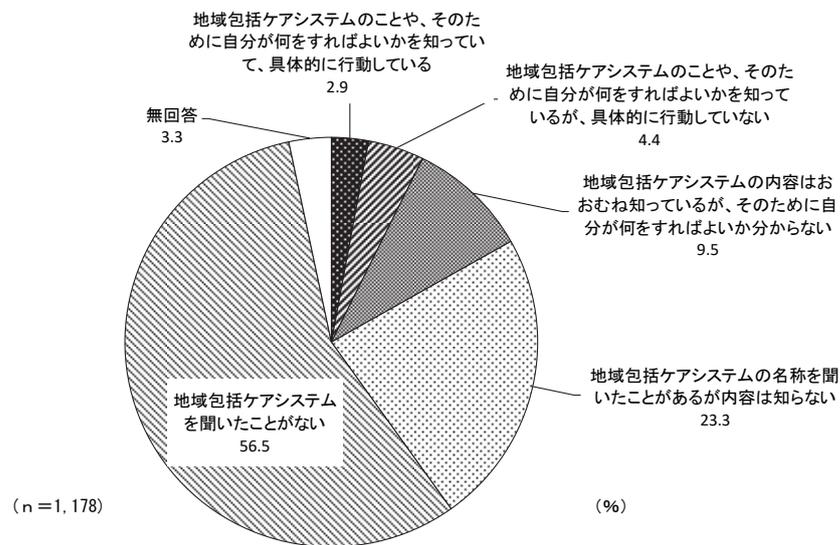
子育て支援の「サービスを利用したことはない」以外と回答した方（306人）に、サービスを何で知ったか聞いたところ、「口コミ」（26.5%）が2割半ばで最も高く、次いで「川崎市や中原区の広報誌（市政だより以外）」（22.2%）、「市や区のホームページ」（21.6%）、「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」（19.0%）となっている。



7. 地域包括ケアシステム

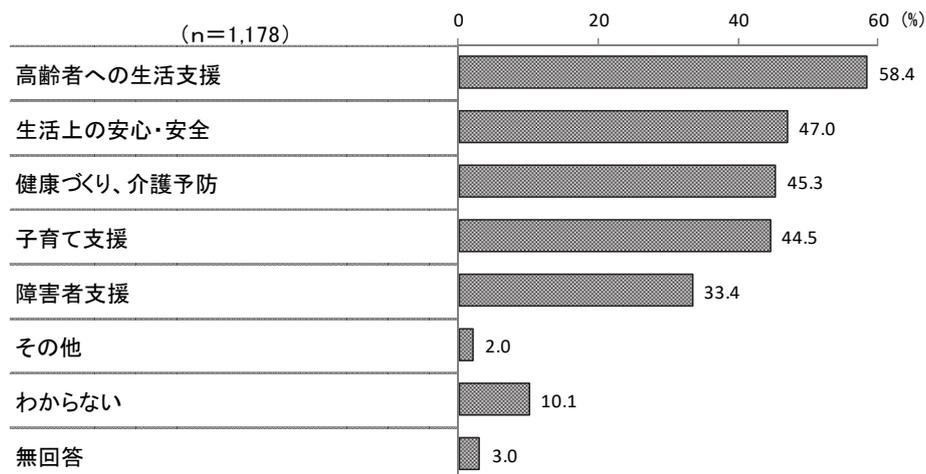
(1) 「地域包括ケアシステム」の理解度・行動

「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」(56.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「地域包括ケアシステムの名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.3%)、「地域包括ケアシステムの内容はおおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」(9.5%)、「地域包括ケアシステムのことや、そのために自分が何をすればよいかを知っているが、具体的に行動していない」(4.4%)となっている。



(2) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

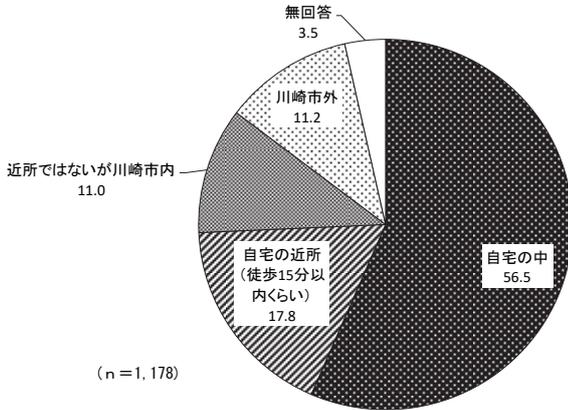
「高齢者への生活支援」(58.4%)が6割近くで最も高く、次いで「生活上の安心・安全」(47.0%)、「健康づくり、介護予防」(45.3%)、「子育て支援」(44.5%)となっている。



8. 自立的な活動

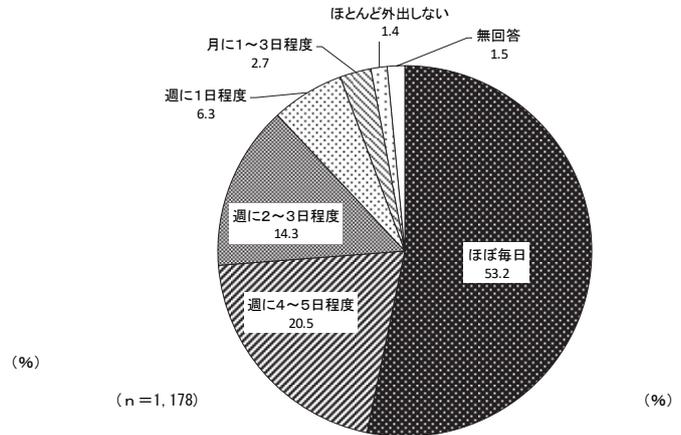
(1) 自由な時間があるときに過ごす場所

「自宅の中」(56.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「自宅の近所(徒歩15分以内くらい)」(17.8%)、「川崎市外」(11.2%)、「近所ではないが川崎市内」(11.0%)となっている。



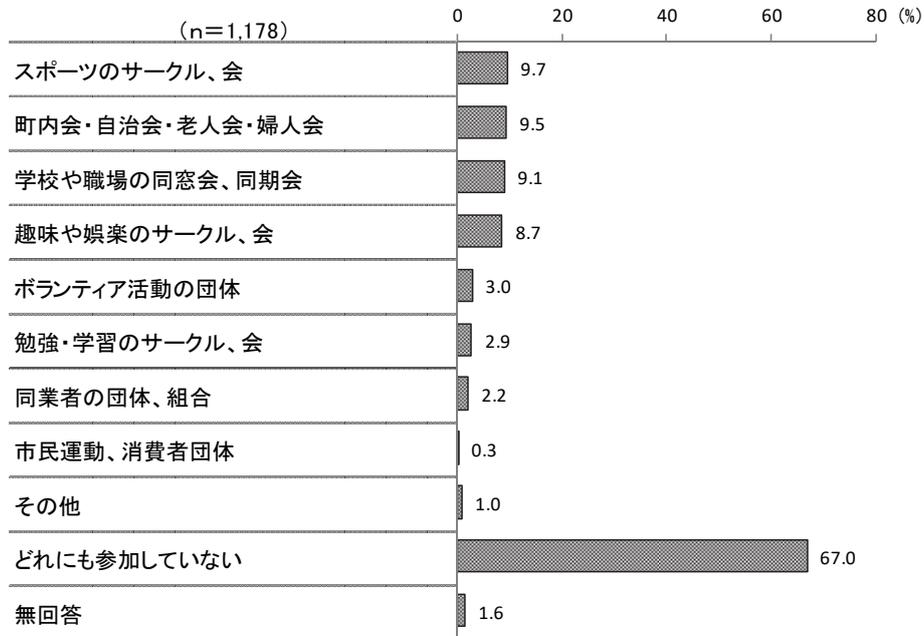
(2) 外出する頻度

「ほぼ毎日」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「週に4~5日程度」(20.5%)、「週に2~3日程度」(14.3%)となっている。



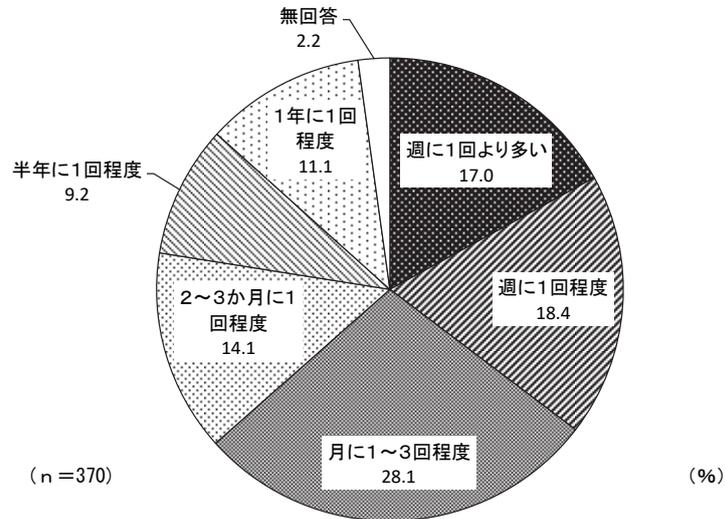
(3) グループ活動への参加状況

「スポーツのサークル、会」(9.7%)と「町内会・自治会・老人会・婦人会」(9.5%)、「学校や職場の同窓会、同期会」(9.1%)が1割弱となっている。一方、「どれにも参加していない」(67.0%)は7割近くとなっている。



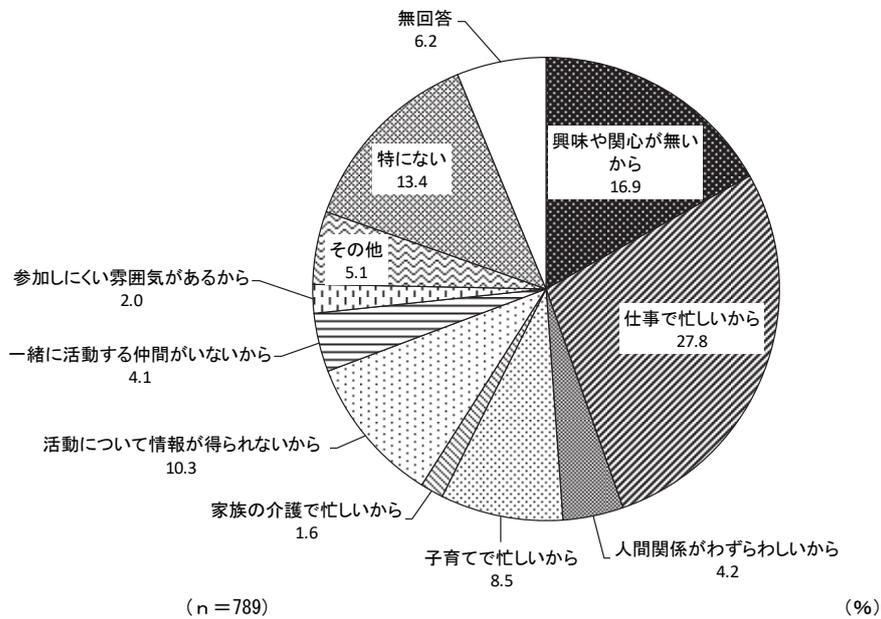
(4) グループ活動への参加頻度

グループ活動に「どれにも参加していない」以外と回答した方（370人）に、参加頻度を聞いたところ、「月に1～3回程度」（28.1%）が3割近くで最も高く、次いで「週に1回程度」（18.4%）、「週に1回より多い」（17.0%）となっている。



(5) グループ活動に参加していない理由

グループ活動に「どれにも参加していない」と回答した方（789人）に、その理由を聞いたところ、「仕事で忙しいから」（27.8%）が3割近くで最も高く、次いで「興味や関心が無いから」（16.9%）、「活動について情報が得られないから」（10.3%）となっている。



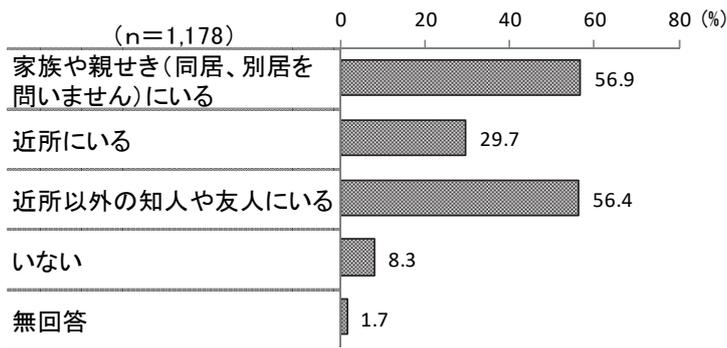
9. 地域の支え合い

(1) 地域で支え合える人の有無

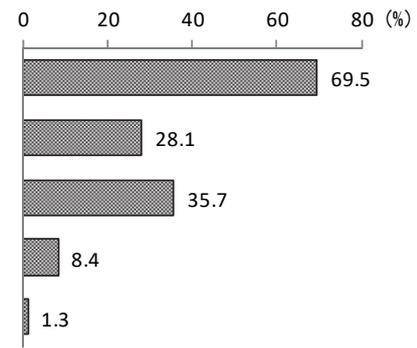
地域で支え合える人がいるかを4項目に分けて聞いた。

- (ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（56.9%）と「近所以外の知人や友人にいる」（56.4%）が5割半ばで、「近所にいる」（29.7%）が約3割となっており、「いない」（8.3%）は1割未満となっている。
- (イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことができる人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（69.5%）が約7割で最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」（35.7%）、「近所にいる」（28.1%）となっており、「いない」（8.4%）は1割未満となっている。
- (ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（57.9%）が6割近くと最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」（48.6%）、「近所にいる」（29.3%）となっており、「いない」（9.8%）は約1割となっている。
- (エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人をみると、「家族や親せき（同居、別居を問いません）にいる」（61.8%）が6割を超えて最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」（50.3%）、「近所にいる」（21.8%）となっており、「いない」（10.3%）は約1割となっている。

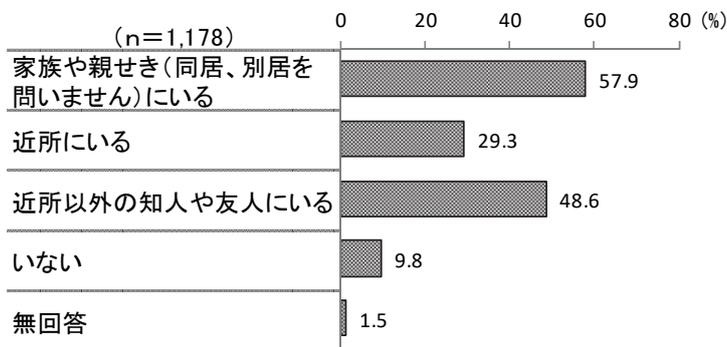
(ア) 一緒に遊んだり
楽しい時間を過ごす人



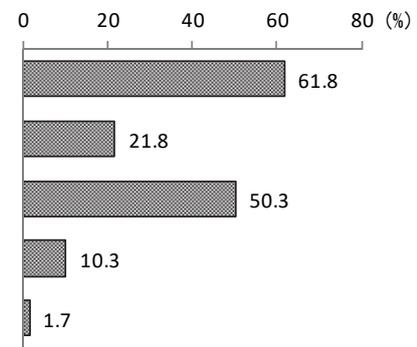
(イ) 困ったことがあった時に、助けや
手伝いを頼むことができる人



(ウ) 必要な時に情報をくれたり
アドバイスをくれる人

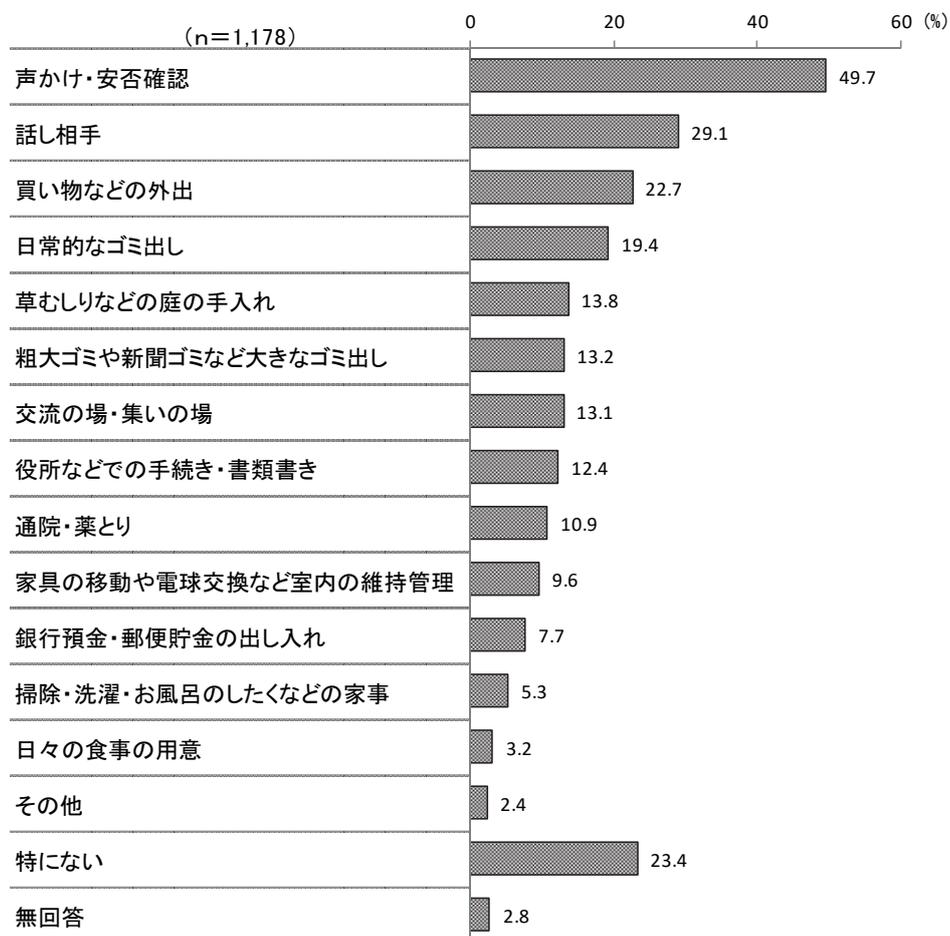


(エ) 悩んでいることや、
気持ちや考えを話せる人



(2) 地域の支え合いに協力できること

「声かけ・安否確認」(49.7%)が約5割で最も高く、次いで「話し相手」(29.1%)、「買い物などの外出」(22.7%)、「日常的なゴミ出し」(19.4%)となっている。

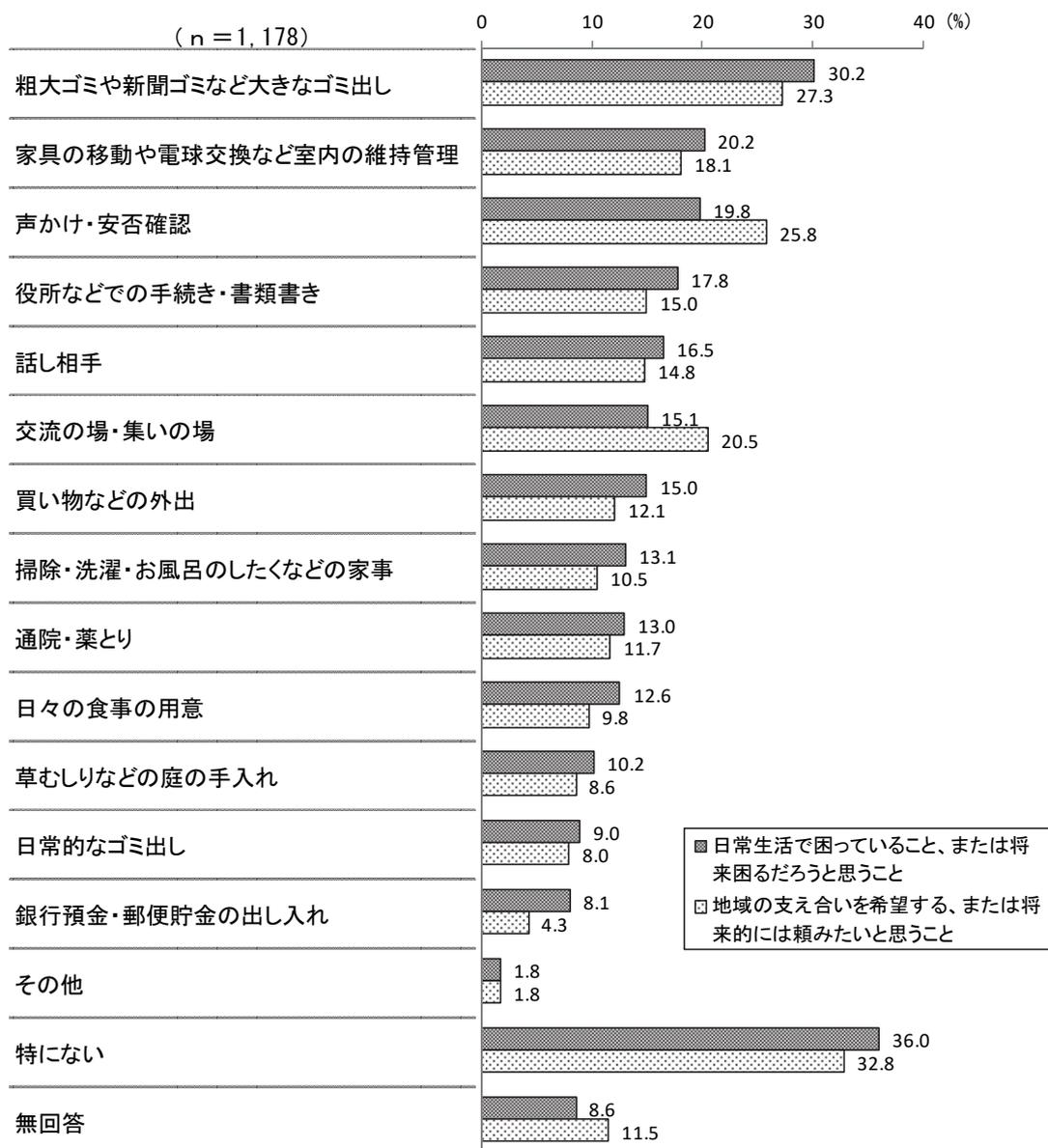


(3) 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと

(4) 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと

日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(30.2%)が約3割で最も高く、次いで「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(20.2%)、「声かけ・安否確認」(19.8%)、「役所などでの手続き・書類書き」(17.8%)となっている。

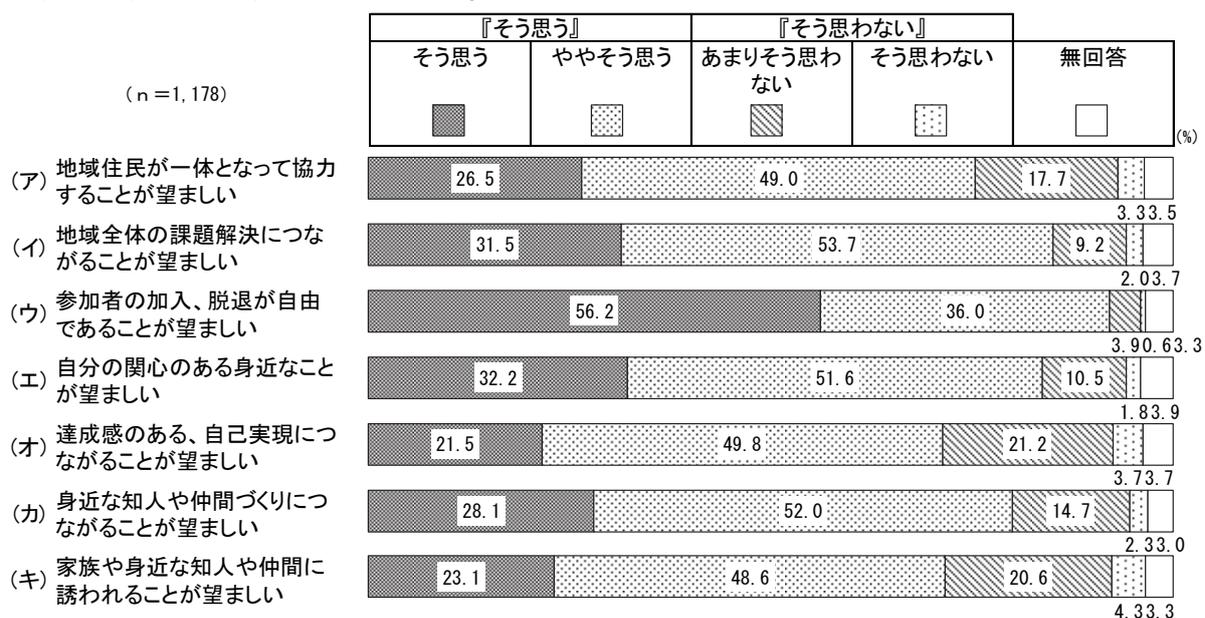
地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」(27.3%)が3割近くと最も高く、次いで「声かけ・安否確認」(25.8%)、「交流の場・集いの場」(20.5%)、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」(18.1%)となっている。



(5) 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考え

「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」についての考えについて、7項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の2つを合わせた『そう思う』は、(ウ)参加者の加入、脱退が自由であることが望ましい(92.2%)が9割を超えて最も高く、次いで(イ)地域全体の課題解決につながることを望ましい(85.2%)、(エ)自分の関心のある身近なことが望ましい(83.8%)となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない』は、(オ)達成感のある、自己実現につながることを望ましい(24.9%)、(キ)家族や身近な知人や仲間に誘われることが望ましい(24.9%)で2割半ばとなっている。

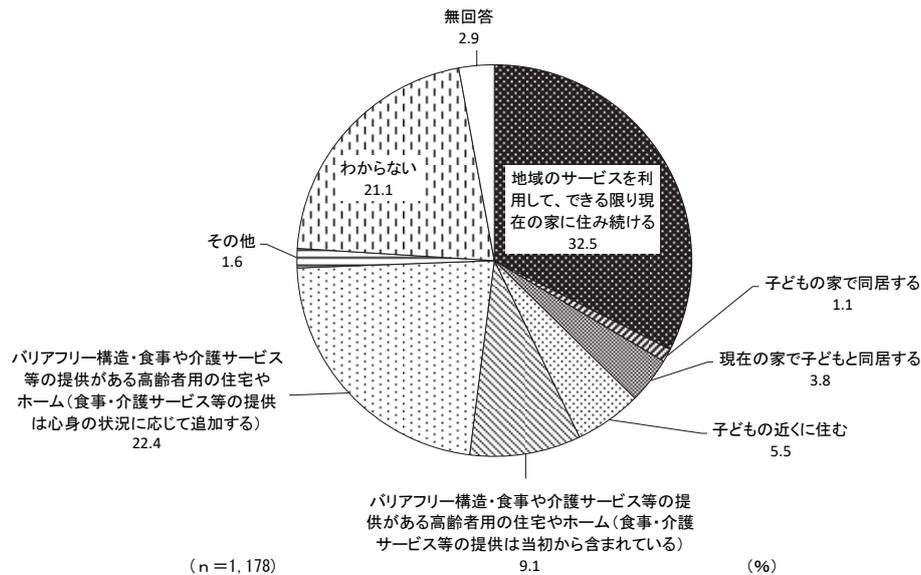


10. 在宅療養

(1) 最期までどのように住みたいか

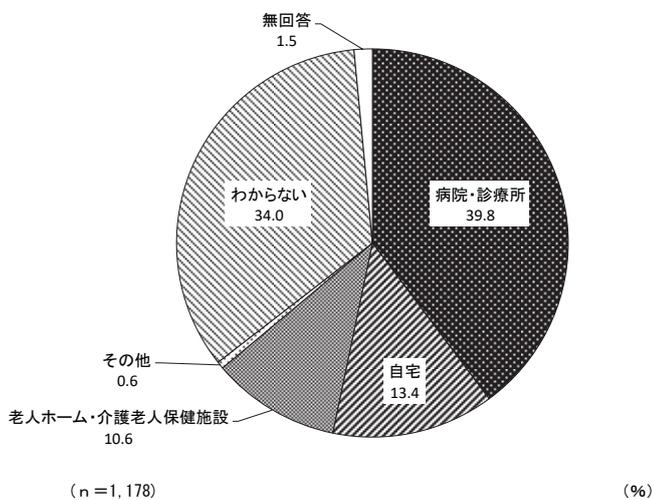
自分の健康への不安が生じたり、日常的な生活の見守り等が必要になった場合、最期までどのように住みたいと思うか聞いたところ、「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」

(32.5%) が3割を超えて最も高く、次いで「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム（食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する）」(22.4%)、「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム（食事・介護サービス等の提供は当初から含まれている）」(9.1%) となっている。



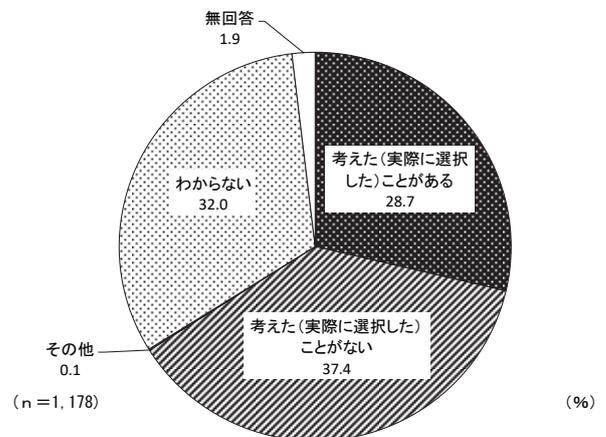
(2) 実際に最期を迎えると思う場所

「病院・診療所」(39.8%) が約4割で最も高く、次いで「自宅」(13.4%)、「老人ホーム・介護老人保健施設」(10.6%) となっている。



(3) 在宅療養を考えた経験

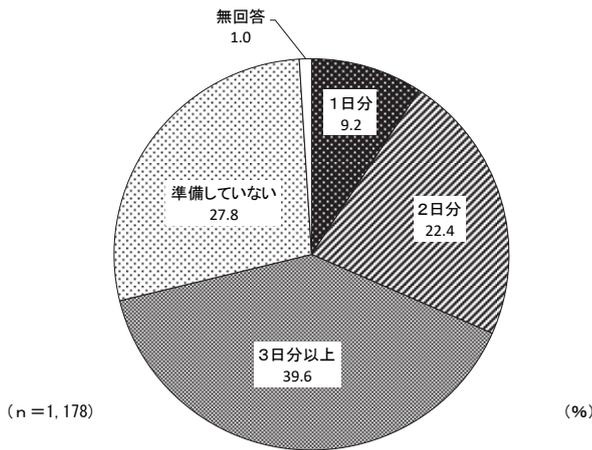
自分や家族について「考えた（実際に選択した）ことがある」(28.7%) が3割近く、「考えた（実際に選択した）ことがない」(37.4%) が4割近くとなっている。



11. 防災対策

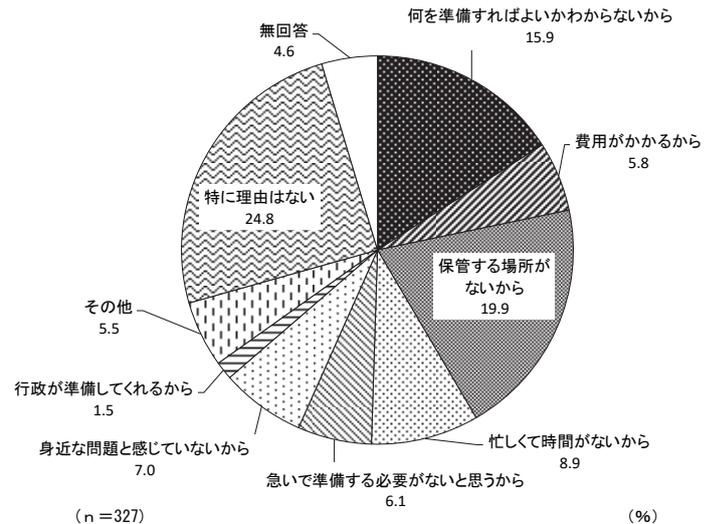
(1) 食料の備蓄状況

大震災に備えて何日分の食料を準備しているか聞いたところ、「1日分」(9.2%)が1割弱、「2日分」(22.4%)は2割を超え、「3日分以上」(39.6%)は約4割となっている。一方、「準備していない」(27.8%)は3割近くとなっている。



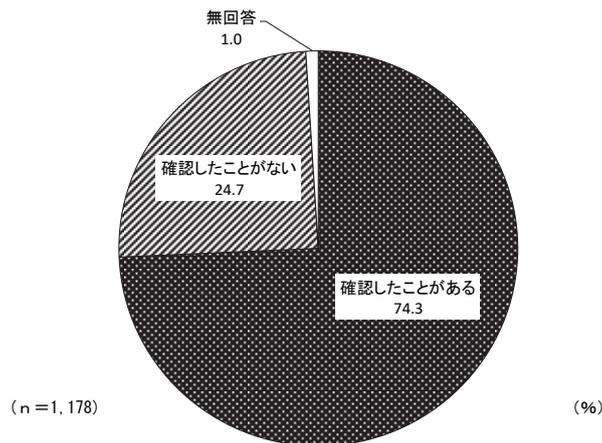
(2) 食料を準備していない理由

食料を「準備していない」と回答した方(327人)に、その理由を聞いたところ、「保管する場所がないから」(19.9%)が約2割で最も高く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」(15.9%)、「忙しくて時間がないから」(8.9%)となっている。



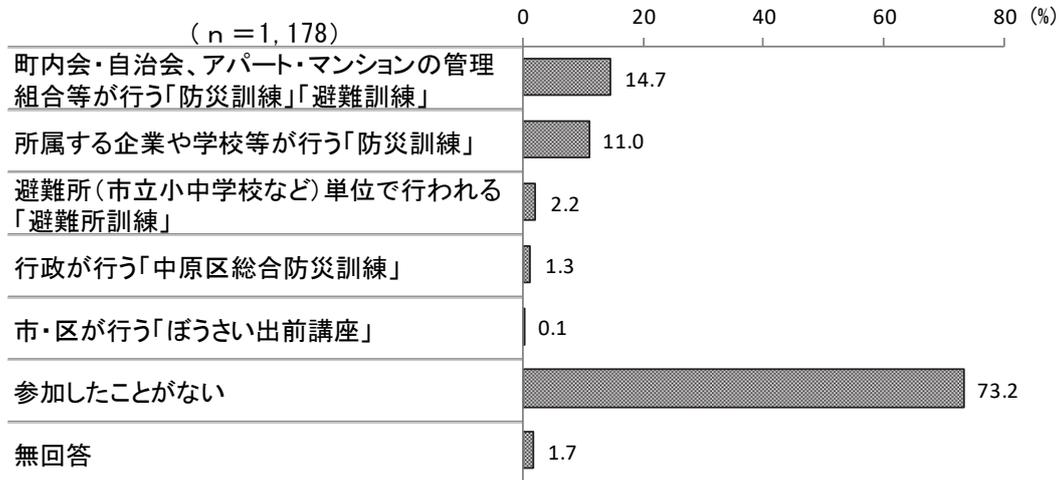
(3) 浸水想定の確認

「洪水ハザードマップ」で自宅の浸水想定を確認したことがあるか聞いたところ、「確認したことがある」(74.3%)が7割半ば、「確認したことがない」(24.7%)は2割半ばとなっている。



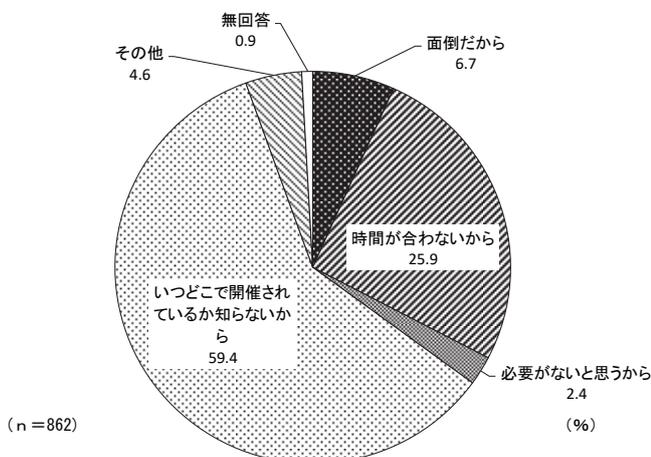
(4) 地域で行われる訓練への参加経験

地域で行われた訓練等に参加したことがあるか聞いたところ、「町内会・自治会、アパート・マンションの管理組合等が行う『防災訓練』『避難訓練』」(14.7%)が1割半ばで最も高く、次いで「所属する企業や学校等が行う『防災訓練』」(11.0%)となっている。一方、「参加したことがない」(73.2%)は7割を超えている。



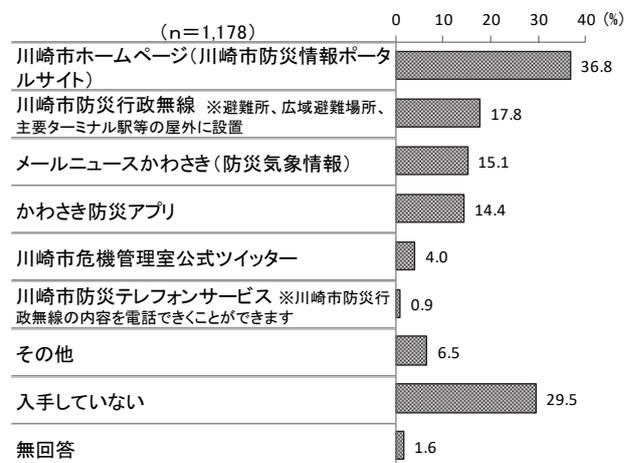
(5) 地域で行われる訓練に参加していない理由

地域で行われた訓練等に「参加したことがない」と回答した方(862人)に、その理由を聞いたところ、「いつどこで開催されているか知らないから」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで「時間が合わないから」(25.9%)となっている。



(6) 災害情報の入手手段

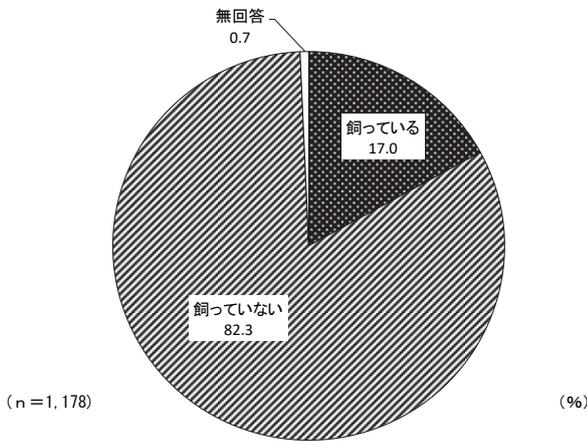
災害時に川崎市から提供される災害情報をどのような手段で入手しているか聞いたところ、「川崎市ホームページ(川崎市防災情報ポータルサイト)」(36.8%)が3割半ばで最も高く、次いで「川崎市防災行政無線」(17.8%)、「メールニュースかわさき」(15.1%)、「かわさき防災アプリ」(14.4%)となっている。一方、「入手していない」(29.5%)は3割弱となっている。



12 ペットに関する防災対策

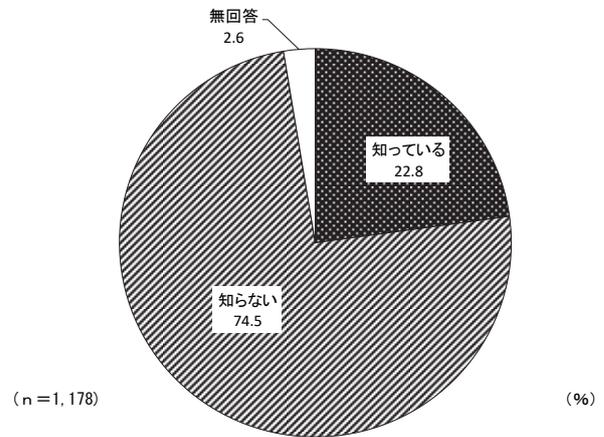
(1) 飼養状況

現在ペットを飼っているか聞いたところ、「飼っている」(17.0%)が2割近くとなっている。



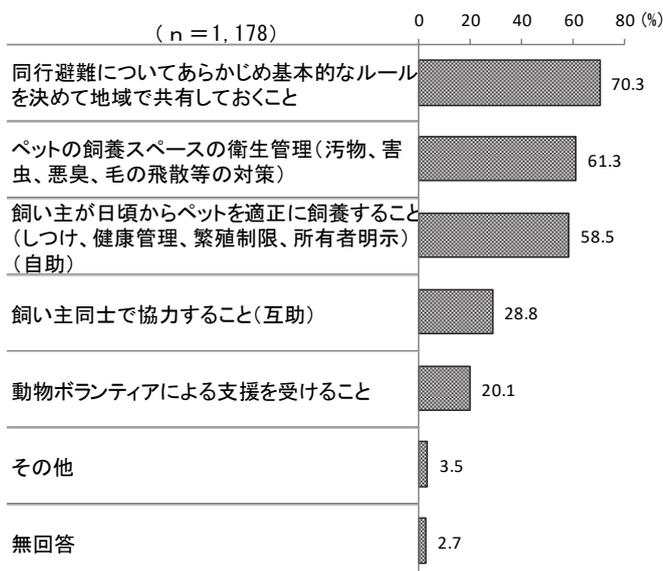
(2) ペットの同行避難の認知度

「同行避難」の内容を知っているか聞いたところ、「知っている」(22.8%)が2割にとどまっている。



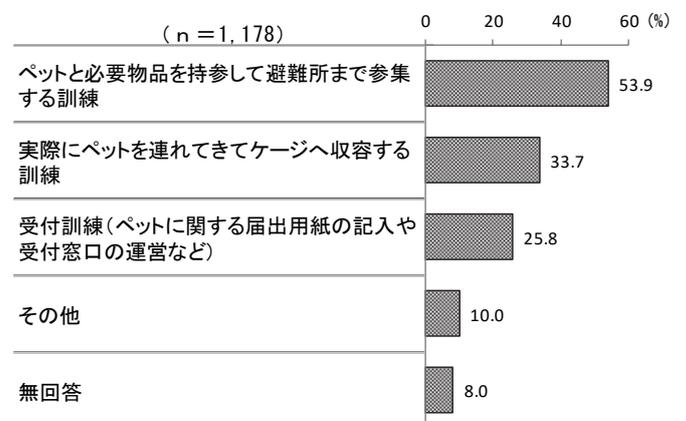
(3) ペットの同行避難で大事だと思うこと

「同行避難についてあらかじめ基本的なルールを決めて地域で共有しておくこと」(70.3%)が約7割で最も高く、次いで「ペットの飼養スペースの衛生管理(汚物、害虫、悪臭、毛の飛散等の対策)」(61.3%)、「飼い主が日頃からペットを適正に飼養すること(しつけ、健康管理、繁殖制限、所有者明示)(自助)」(58.5%)となっている。



(4) どのような訓練なら参加したいか

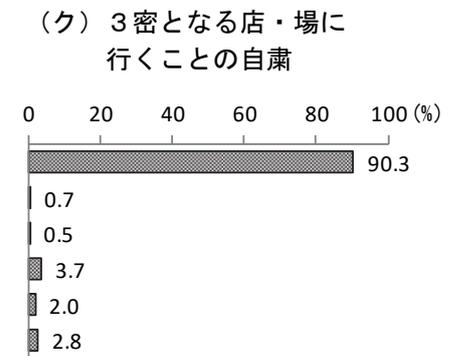
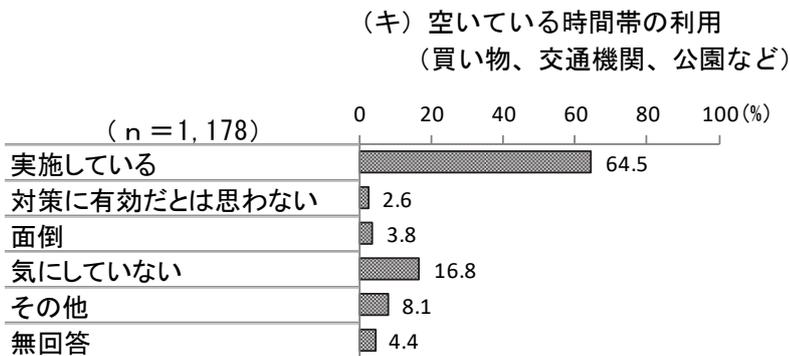
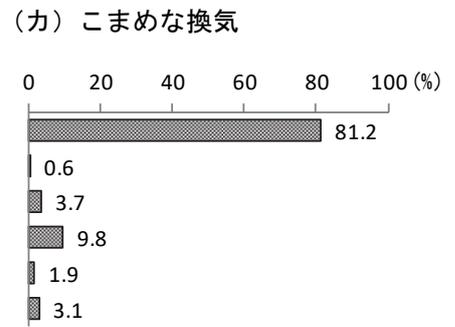
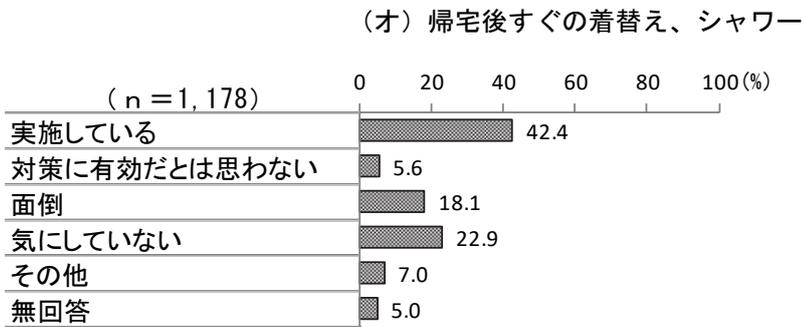
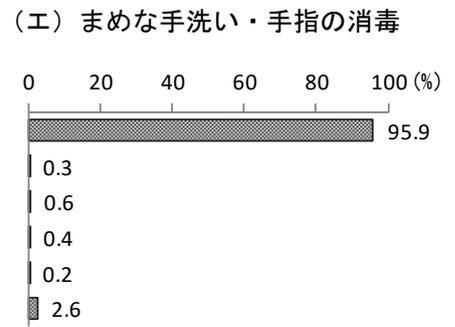
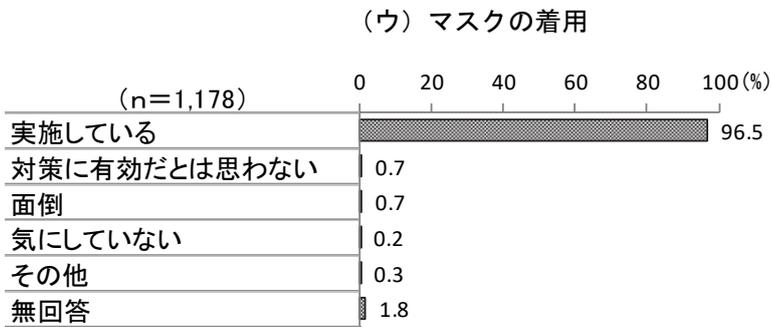
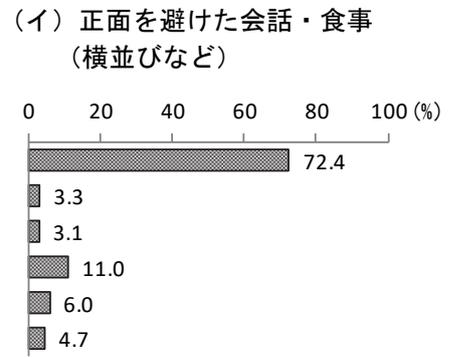
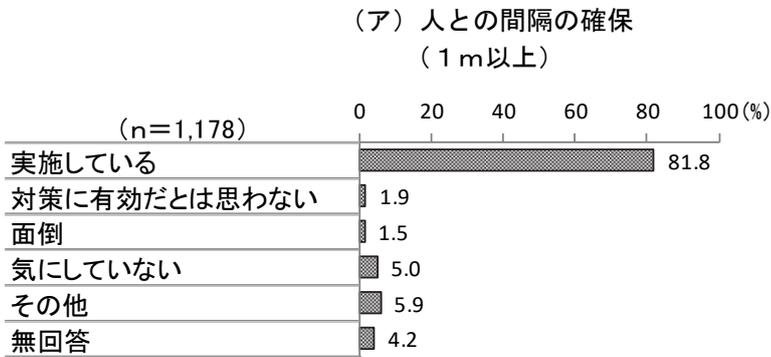
中原区総合防災訓練で同行避難訓練を実施する場合、どのような内容なら参加(見学)したいか聞いたところ、「ペットと必要物品を持参して避難所まで参集する訓練」(53.9%)が5割を超えて最も高く、次いで「実際にペットを連れてきてケージへ収容する訓練」(33.7%)、「受付訓練(ペットに関する届出用紙の記入や受付窓口の運営など)」(25.8%)となっている。



13 新しい生活様式について

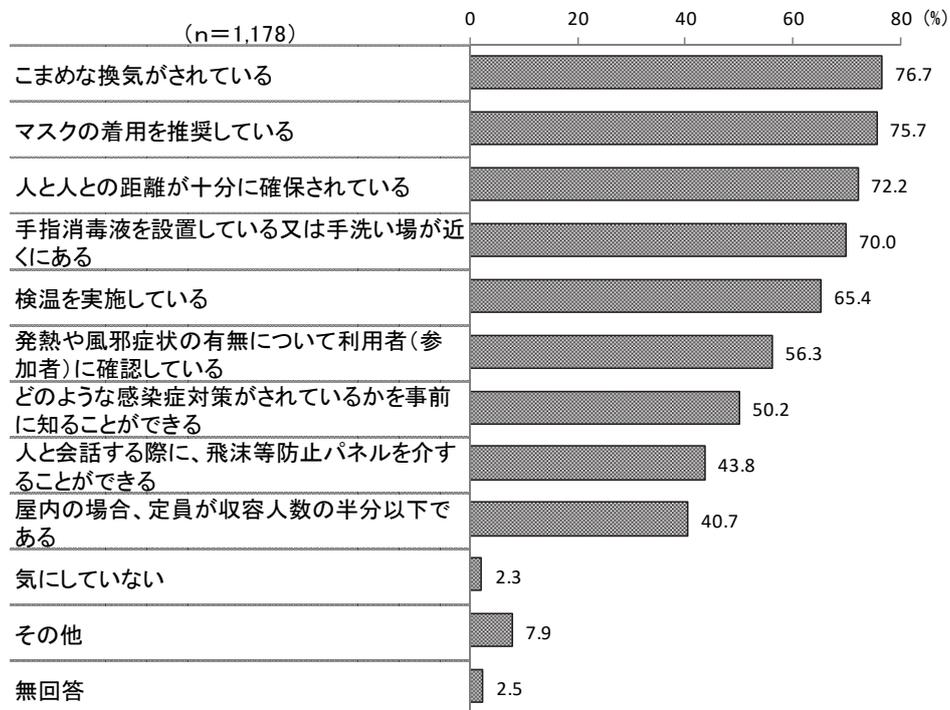
(1) 実施している対策

「実施している」はマスクの着用（96.5%）が9割半ばを超えて最も高く、次いで（エ）まめな手洗い・手指の消毒（95.9%）、（ク）3密となる店・場に行くことの自粛（90.3%）となっている。



(2) どのような対策を求めるか

人が集まる場所（施設やイベント等）に行く場合、どのような感染防止対策がされていれば、行こう（参加しよう）と思うか聞いたところ、「こまめな換気がされている」（76.7%）と「マスクの着用を推奨している」（75.7%）が7割半ばとなっており、次いで「人と人との距離が十分に確保されている」（72.2%）、「手指消毒液を設置している又は手洗い場が近くにある」（70.0%）となっている。



14 自由意見

「行政全般（災害対策、計画、制度等）について」（102件）が最も多く、次いで「生活環境（住みやすさ等）について」（66件）、「公園・緑地・河川・道路の整備等」（48件）と続いている。

上位項目	件数
行政全般（災害対策、計画、制度等）について	102
生活環境（住みやすさ等）について	66
公園・緑地・河川・道路の整備等について	48
交通ルールやマナーについて	26
バス・鉄道などの交通機関について	20

中原区区民アンケート 概要版

令和2年12月

川崎市中原区役所まちづくり推進部企画課

〒211-8570 川崎市中原区小杉町3-245

電話（044）744-3149

FAX（044）744-3340